

日本の技術輸出の実態(平成8年度)

(NISTEP Report No.58)

情報分析課

本調査は、技術輸出の実態を把握し、我が国の技術貿易の特徴を明らかにすることを目的として、民間企業に対してアンケート調査を行い、平成8年度(平成8年4月1日～平成9年3月31日)に実施された技術輸出の内容を取りまとめたものである。(対象企業:資本金10億円以上)

平成8年度における特徴的事項をいくつか挙げると、

○増加傾向にあった中国への技術輸出が、今年度は減少に転じ、中国への技術輸出が一段落した。

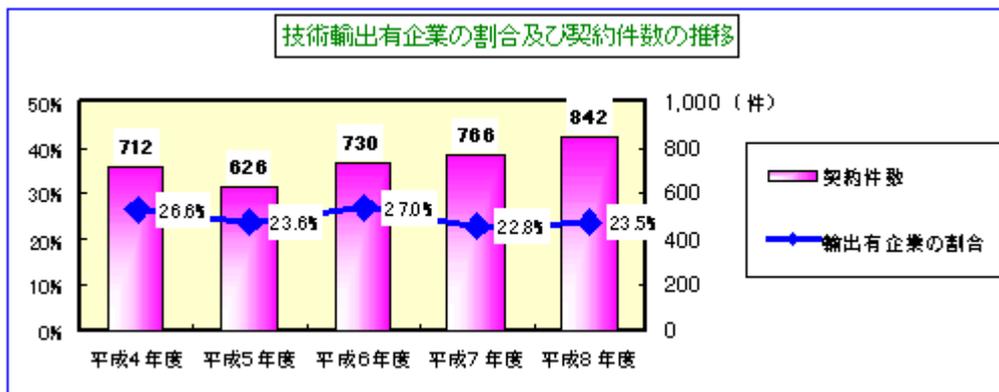
○米国への技術輸出は、今年度は大幅に増加し、3年連続して1位を占めている。

○技術内容については、3年連続して「輸送用機械」が1位を維持したものの、前年度に比べて

減少に転じ、一方「鉄鋼」が大幅に増加し、2位に上昇した。

<新規技術輸出状況>

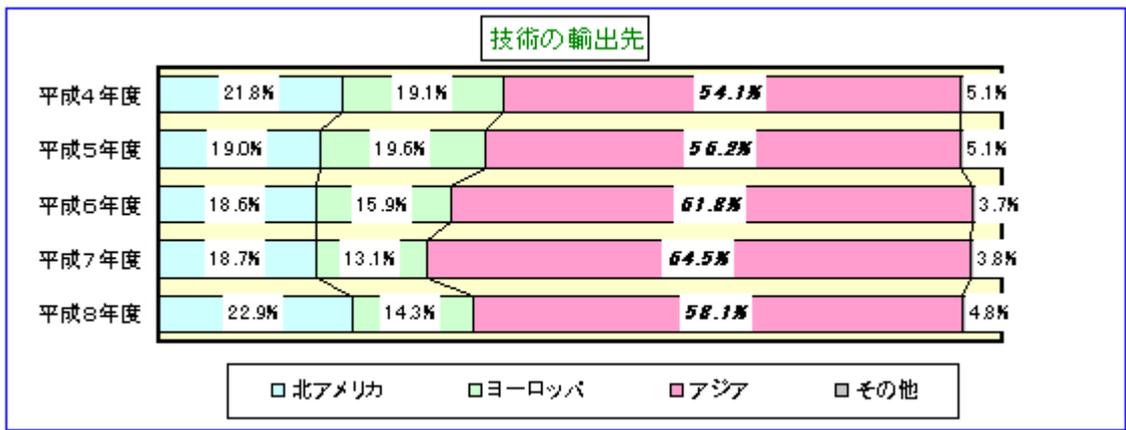
新規の技術輸出を実施した企業数は260社(アンケート回答企業 1,107社)、契約件数は842件であり、前年度に比べて増加している。



<ゾーン別、国別輸出状況>

ゾーン別にみると、アジアについては、件数は、ほぼ同数であるが、比率については前年度に比べ、減少に転じ、全体の約6割(58.1%)に留まっている。

また、国別にみると、米国が1位であり、件数、比率とも大幅に増加(20.5%)しており、中国については、件数・比率とも、初めて減少(11.0%)に転じ、中国への技術輸出が一段落したことを示している。

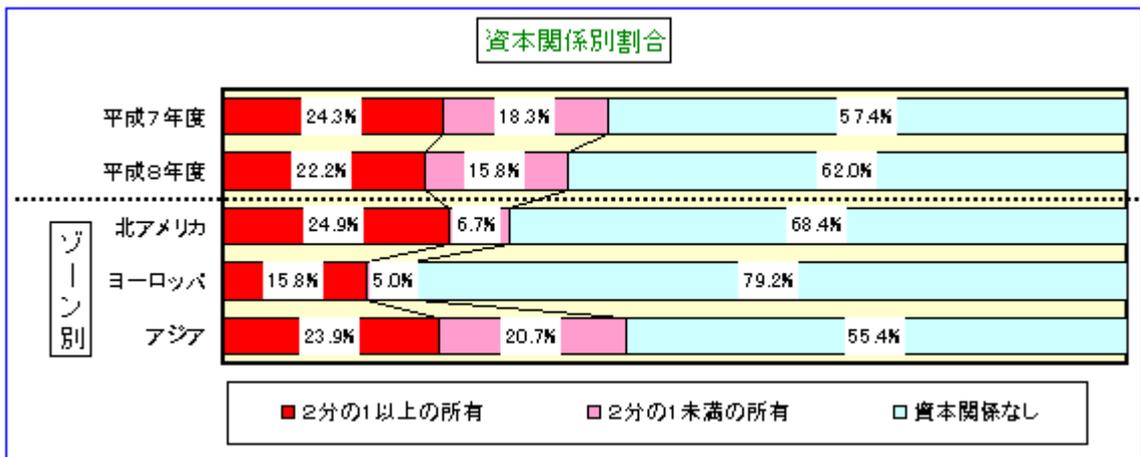


<輸出された技術内容の状況>

輸送用機械に関する技術は、1位であるものの、件数、比率とも前年度に比べて減少に転じている。一方、鉄鋼に関する技術は、件数・比率とも大幅に増加し、2位に上昇している。

<資本関係別輸出状況>

アジアでは資本関係のある企業への技術輸出は、前年度より減少したものの、約半数(44.6%)を占めている。



<技術輸出入の構造比較>

「外国技術導入の動向分析(平成8年度)」の結果と合わせて輸出入を比較すると、米国から、ソフトウェアを中心とする技術を導入し、アジアに対して、資本関係を伴ったハード技術を輸出する非対称な技術貿易構造となっている。

輸出先地域(該当契約件数810件)

輸入先地域(該当件数2,050件)

